

(別記様式第4号)

普及活動検討委員会評価結果及び意見等に対する対応方向

実施月日：令和8年3月10日
実施場所：宮城県行政庁舎 農政部会議室

1 委員

所 属	氏 名	所 属	氏 名
公立大学法人宮城大学	川島 滋和	株式会社クボタ	及川 一也
宮城県農業士会	公平 伸行	宮城県農業士会	八巻 静
宮城県農業協同組合中央会	渡邊 智美		

2 検討内容

	検 討 項 目
(1) 令和7年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の取組について	①環境に配慮したさつまいも栽培体系の構築 ②作業の省力化・効率化に向けたアグリテックの体系的な活用
(2) 令和8年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動の計画について	①環境に配慮したさつまいも栽培体系の構築 ②作業の省力化・効率化に向けたスマート農業の体系的な活用
(3) 協同農業普及事業の実施に関する方針(案)についてその他	協同農業普及事業の実施に関する方針(案)について

3 委員の評価と県としての対応方向

検討項目	評価値 〔委員 平均〕	評価結果 (コメント、評価表の要約)	県としての対応方向
令和7年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動(実績) ①「環境に配慮したさつまいも栽培体系の構築」	4.0	<ul style="list-style-type: none">3地区における産地化を支援し、検討会や実演会を開催するなど、現地と連携したとても良い活動を展開し、目標を達成しています。一方で、環境に配慮するとはいえ、経費が上昇するので、産地へのメリットを今一度整理することも必要だと思えます。検討会や実演会を通じて農家が技術を理解し、実際の作業につながっている点は評価できます。一方で、省力化の効果はあるものの、生分解性マルチの導入には経費が大きく、コスト面での課題があると感じられました。環境に良い技術であっても、収量が低かったりコストが高い場合、そのような栽培体系は普及しません。そのため、市場動向や契約栽培の際には、実需者のニーズに沿った栽培体系の構築が重要であると考えます。	<p>次年度も現地検討会の開催や、研修会等での情報提供により、生産者の方々の理解促進を図り、生分解性マルチを取り入れた栽培体系の普及を図ってまいります。また、経費だけを評価するのではなく、作業の効率化と収益性を併せて評価する等、導入のメリットを整理したいと考えております。</p> <p>生分解性マルチの導入による環境に配慮した栽培体系が、実需者ニーズを踏まえたマーケットイン型の生産に結び付き、収益性を確保できるよう、生産者の志向も把握した上で、栽培体系の構築を目指してまいります。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮を目的としていたので、今年度は詳しく見えませんでした。収支決算と天候事情を加味された評価を見たいと思いました。 	<p>作業の効率化と収益性を併せて評価する等、導入のメリットを整理したいと考えております。</p> <p>また、今夏の高温乾燥による生育の一時停滞は、生分解性マルチの栽培体系に限らず、全般的な傾向と見ております。次年度も引き続き気候条件による影響について、確認する計画です。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 作業の省力化と環境に配慮した栽培、どちらも重要な課題であり、それを両立できる取組として期待できます。 	<p>生分解性マルチの導入による、環境にやさしい栽培技術と省力化に資する技術を取り入れた、新たな栽培体系への転換に向けた産地の取組を、今後も支援していきます。</p>
<p>令和7年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動（実績）</p> <p>②「作業の省力化・効率化に向けたアグリテックの体系的な活用」</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> RTK システムを用いたトラクターマウンティングによる除草剤散布や可変施肥散布など、個々の技術で成果が出てきています。今後は、個別技術の普及に加え、他の品目への応用を検討し、技術の汎用性を高めたり、個別技術を組み合わせたりすることで、スマート農業のさらなる効率化・省力化を期待しています。 	<p>今回実証した技術は、水稻だけでなく大豆、麦類、露地野菜など他の土地利用型作物でも活用できるものです。他の品目でも実証や事例調査などを通して作業時間の削減効果や収量等への影響を評価し、汎用的に活用できる技術として普及拡大を図っていきたくと考えています。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 大規模水田輪作経営体の発展に欠かせないスマート農業技術について、実証活動とアドバイス体制の構築を両面でしっかりやっており、目標以上の成果を達成しています。指導者のスキル向上につながっているところは、特に評価できる点だと思います。 	<p>RTK 基地局の整備や営農管理システムの普及などに力を入れた結果、各農業改良普及センターの活動においても、スマート農業技術への支援が増えてきました。引き続き、最新の技術情報や事例を普及員に提供しながら、指導力のスキルアップを図ります。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 今後、就業者数が減っていくのは確実なので、作業効率、省力化のため、必要な普及活動と思います。 	<p>人材不足を始め、農業者の皆さんがかかえる様々な課題に対して、解決策の一つとしてスマート農業技術を上手に活用できるように支援していきます。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> 可変施肥しても生育の均一化が難しかった点について、追肥が必要と考えます。ブロードキャスト散布が可能な鶏糞ペレットなどを活用すれば、地力の均一化や持続的な肥効が期待できます。 	<p>ご指摘のとおり、可変施肥では、地力ムラと可変量の調整の課題が明確になり、基肥だけでなく追肥での調整も必要と感じました。水稻の追肥では、トラクターでは場に入る抵抗がある農業者もいるので、麦類での追肥で検討していきたいと考えています。</p>
		<ul style="list-style-type: none"> スマート農業については様々な技術・システムが開発されていますが、導入には費用がかかることから、生産者が導入の可否を判断できる事例の研究として期待できます。 また、営農管理システムの導入については、システムそのものに限らず、入力支援体制の検討も行うことで、より実効性のある取組となっていると感じます。 	<p>本来は、経営的な評価までできると良いのですが、経営体によって状況が異なるため、技術の導入効果までにとどめています。農業者が参考にできるデータになれば幸いです。</p> <p>営農管理システムは、経営の見える化に繋がる重要な技術である一方で、特に高齢の農業者には慣れるまでのハードルが高い点が課題です。普及センターと連携して継続的な伴走支援を行ってまいります。</p>

<p>令和8年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動（計画）</p> <p>①「環境に配慮したさつまいも栽培体系の構築」</p>	<p>4.4</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生分解性マルチの導入地域数を定量的目標に掲げているが、サツマイモの収量や販売価格も定量的目標にすべきではないか。環境面を重視した品目の普及を目的とすると、農業経営者が重視している経済性を軽視していると捉えられかねない。やはり環境面に加え、この技術を普及する経済的メリットを明確に提示すべきだと思います。 次年度は、収支決算の評価と、天候事情と病害対策を加味していただけるとよいと感じました。 	<p>技術の向上による収量の確保や、実需者ニーズへの対応による出荷販売額の向上は、経営面での重要テーマであると認識しております。従いまして、次年度は作業の効率化と収益性を併せて評価する等、導入のメリットを整理したいと考えております。また、気候条件による影響、病虫害の発生状況とその対策についても併せて確認してまいります。</p>
<p>令和8年度の農業革新支援専門員プロジェクト活動（計画）</p> <p>②「作業の省力化・効率化に向けたスマート農業の体系的な活用」</p>	<p>4.6</p>	<ul style="list-style-type: none"> 以前は導入そのものが目的化していた営農管理システムが、次第に目的に応じて導入されるようになってきたことは大変喜ばしい。労務管理や作業管理など、導入の目的は経営体ごとに異なると思いますので、特徴ある導入事例を目的別に紹介するなど、今後のさらなる普及拡大を期待しています。 データの活用がますます重要になっています。追肥の可変施肥における施肥量の算出に必要なアルゴリズムについては、試験研究機関と連携した取り組みに期待します。利用者の年齢の幅やITスキルの高低が大きい場合は、自動で日誌作成ができる営農システムの導入も有効ではないかと思っています。 	<p>今年度の実証では、短期と中期の分解タイプを比較し、次年度は中期と中長期を比較する計画です。生育や収穫の作業性も含め、生分解性マルチの県内さつまいも栽培への適合性を検証していきます。</p> <p>営農管理システムは、入力したデータを活用して初めて導入効果が出てくる技術です。記録だけで終わらないように、データ活用まで見据えた導入・活用方法を検討しながら支援し、導入事例と支援事例を合わせて、普及拡大をしていきたいと考えています。</p> <p>次年度の実証では、中長期の分解タイプを用いることで、収穫間際まで被覆性を保ち、収穫の作業性等を比較検証する計画です。また、マニュアル作成及び情報提供において、次年度は作業の効率化と収益性を併せて評価する等、導入のメリットを整理したいと考えています。</p> <p>県内各地で同一品目の現地実証を行うことは、資材の特性把握だけではなく、気温や土壌条件への適応性等、様々な要素の比較検証が可能になる。新たにさつまいも栽培に取り組む地域も多く、品目としての地域適応性の確認も含めて現地実証に取り組んでまいります。</p> <p>センシングデータの活用方法は、まだ手探りの部分が多いですが、試験研究の結果も出てきており、現場の普及員と試験場の研究員が情報共有しながら、データ活用の事例を作っていきたいと思えます。営農管理システムの活用は、自動化によりかなり手間が省けると思えます。いろいろな入力手法を提案しながら、農業者のスキルと目的にあった手法を選択してまいります。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> 作業時間のみではなく、軽油使用量も調べるとよいと感じます。営農管理システムの普及は期待しております。 営農管理システムについて、手書きの日誌からとの説明でしたが、使いやすく単純なものから導入することが重要であると思いました。音声入力や「アグリノート」などの活用も考えられ、今後のスキルアップを期待しております。 R7 の取組結果、課題に対し、より深い検討を期待します。 	<p>自動操舵による軽油使用量の削減効果は、新しい発見でした。作業時間のみならず、燃料や機械の故障、農作業安全など副次的な効果も評価していきたいと考えています。</p> <p>営農管理システムは、ほぼすべての農業者に導入効果があると考えています。普及センターとも連携しながら、導入・活用事例を共有して、普及拡大を図っていきます。</p> <p>営農管理システムの導入支援では、負担になりすぎて諦めないように、農業者のペースに合わせた活用を支援しています。自動入力や下書きなど入力の補助機能も活用しながら、少しずつスキルアップし、効率的な活用ができるように、支援していきたいと考えています。</p> <p>可変施肥の可変量の設定や、営農管理システムの入力体制など、R6、7 年度に得られた課題を踏まえて、効率的に技術を活用できるように、実証を重ねていきます。</p>
<p>協同農業普及事業の実施に関する方針(案)、その他、本県の農業普及活動に関する御意見、御要望等</p>	<ul style="list-style-type: none"> 農業改良普及事業は、人的・予算的制約もあってどうしても「点」として支援になってしまいます。その「点」を「面」へと広げていくのは、農業者間および食料システム関係者のネットワークだと思います。また、ICT を通じてこうした農業者ネットワークを築くことは容易になってきました。農業改良普及の効率性を高めるためにも、農業者や食料システム関係者が相互に情報発信できるプラットフォームのようなものがあると良いと思います。 農業者が自らデータを収集、活用する事例も出てきました。普及指導機関が営農支援システムを介して農業経営体と情報を共有することで、より綿密な経営支援をすることも可能になると思います。普及活動方法の一層の高度化に期待します。 お世話さます。普及員さんの数が少ない中での、様々な活動に感謝いたしております。 これからも農家さんに寄り添っていただき、専門的な技術指導や助言をよろしく願いいたします。 	<p>農政部では、担当課を中心に生産者及び一次加工業者と実需者が相互に情報交換ができるよう、マッチングリストを作成予定です。普及組織においても、農業者や食料システム関係者とのコーディネーター役として、食のバリューチェーン構築に向けた取組を引き続き支援してまいります。</p> <p>現在、スマート農業の普及に伴い、現場では経験や勘に加え、客観的なデータに基づいた経営判断が広がりつつあります。ICT を単なる効率化のツールに留めず、農業者とともに経営の安定化に寄与する技術として普及組織としても活用してまいります。</p> <p>ICT の活用等による、普及指導活動の効率化・高度化を行い、引き続き現場に足を運び、農業者に寄り添った支援を行ってまいります。</p>